

- 地方公共団体が包括的に人の生き方、人が人らしく生きることをサポートしていくためには、縦割りになっている行政分野を結合させたり組み替えたり、リデザインしていく能力が求められるのではないかと。メタレベルの議論になるため、「変化・課題」や「視点」の表に入れる内容か検討する必要があるが、こうした考えが、公共私議論につながるのではないかと。
- 「報酬形態の弾力化」を「視点」の「6. 移動・定着」に記載してもらったが、本日の堀田教授の発表の中でもインセンティブがないと持続性がないという話もあったところから、「6. 移動・定着」以外の箇所にも記載することを検討してもらえないかと。
- 「AI・RPAの活用」というようにまとめて記載しているが、分けて記載した方がよいのではないかと。RPAは既存の業務を前提としているが、本来の情報化は、紙の上の手続をICTで効率的に処理するというだけでなく、業務のデザインを見直して業務を統合・効率化することを伴う。攻めのタイプの情報化(AI等)と受けのタイプの情報化(RPA等)は分けて整理した方がよいのではないかと。
- 公共私ベストミックスの議論においては、最終的に「公」に何が残るのか、議論が必要ではないかと。
- 「視点」の「目標」と「施策」について、どのような条件を満たしている地域に開かれているものなのか、その前提としてリソース(資金等)をどう入れればよいのかということ、視点として位置づけておくべきではないかと。
- 2040に向けた地方自治体のあり方について、我々が議論していることを、市民と思いを共にすることが必要。「変化・課題」の資料に「教育」が掲げられているが、市民教育や、起きていることを見える化して皆で解決するというをどこかに入れてもらえないかと。